

## 小豆支部 研究のあゆみ

1. 研究主題 主体的に学びに向かい、対話を通して課題を解決しようとする児童の育成  
—言葉による見方、考え方を働かせて—

### 2. 研究主題について

国語科の学習において目指す児童の姿を具体的にし、共通理解のもと研究を進めていく必要があると考えた。昨年度に引き続き教材解釈シートを新たに検討し、教材理解を深めていくこと、言葉による見方・考え方を働かせて読み、対話を通して自分の考えを自覚したり変容したりすることのできる力をつけるための授業づくり、児童に何ができるようになったかが分かり、学ぶ楽しさの意味を実感できるための環境づくりの3点に重点を置いて進めることとなった。

### 3. 研究活動の概要

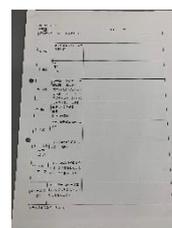
- (1) 4月20日(木) 土庄小学校
- ① 研究組織づくり
  - ② 研究計画の立案
- (2) 5月25日(木) 土庄小学校
- ① 物語文の教材研究(研究部) 教材解釈シートの見直し
  - ② 書写指導についての研修 豊島小学校 藤田先生
- (3) 9月26日(火) 豊島小学校
- ① 授業研究 4年  
「題名にかくされたひみつを探ろう」(『一つの花』)
  - ② 授業討議

### 4. 研究内容

- (1) 1回目の研修について(5月25日)

- ①土庄小が事前に用意してくださった文学作品の教材分析を個人で見直す。
- ②各学年団で話し合い、教材解釈シートに追加で記入していく。
- ③各学年団で話し合ったことを共有する。
- ④それをもとに土庄小で打ち直していただく。
- ⑤書写指導について、事前に部員の質問を藤田先生が解答する研修となった。

- ・デジタル教科書の活用方法
- ・太筆・小筆の洗い方・保管方法(一人一人に用意する必要がなく、ペアで使う。そのことで対話が生まれる。)
- ・水書活動は、筆使いが目的であること。
- ・授業の中で対話的学びとして、2択クイズの導入。
- ・漢字の手本の部首をはさみで分解し組み立て方を確かめながら、字形を捉える。
- ・書写は、まずねらう力を明確にする。技術偏重でなく、知識着目で、きれいに書くではなく、どこを意識して書くのかを伝えることで、取り組みやすくなること。文化祭出品作品の指導は、今年度の寸評をもう一度見ながら各学年のポイント等教えてくださり、今後の授業づくりと文化祭出品の指導について大変有意義な研修になった。



## (2) 2回目の研修について(9月26日)

「題名にかくされたひみつを探ろう」(『一つの花』)の授業研究を行った。1回目の研修で得た成果をもとに、授業者が児童の実態に合わせた授業内容であった。物語の題名に焦点を置き、言葉の力でつないでいく授業を行った。事前に、6名の児童が題名の意味の手掛かりとなる本文を確認し「題名の意味にふさわしいものはどれか」「その根拠は何か」ということを念頭においた上で6問のクイズを作成していた。1問のクイズに対して、残りの5人が根拠となる理由をもって、解答していた。自分が出した答えを、友だちの意見を聞いていく上で変更したり、しなかったりと教材文を事前にしっかり読みこんでいるからこそ、児童の一人一人の深い思考を促すことのできた指導方法であった。



## (3) 成果(○)と課題(●)について

- 1回目の研修では、教材解釈シートを活用して他の先生と話をすることで教材の見方が深まり、各学年で教えること・ねらいを考えることができた。
- 書写指導では、書写でねらう力を明確に焦点化することで楽しんで書こうと思う児童の姿が想像できた。きれいに書くことより、意識して書くことの大切さが学べた。
- 2回目の研究授業では、クイズ形式の言語活動にすることで、子どもたちが生き生きと学ぶ姿が見られた。選択肢を考える子どもたちも思考力を活用して意見が分かれて対話できていた。
- 教材解釈については、色々な捉え方があり、土庄小でまとめきれず、せっかくの考えを生かすことができなかった。また、その場で考えたことで、深い読みができてない部分がある。教材の特徴から身に付けたい力や単元を立てる必要性を、部員で話し合う機会があればよかった。
- タブレットのロイロノートでテレビに映し出すことで、前に出なくても発表ができるようにするとよいのではないか。
- ワークシートに「意見が変わった理由」の枠を設けることで、変わった理由や根拠をより深めていけたのではないか。

## 5 県の研究との関連

### 【今年度の研究での成果】

物語単元の教材研究をし、物語解釈シートを見直したことで、共通理解のもと、子どもたちに付けたい力を身に付けさせるための単元構成や指導法を把握することができた。

### 【今年度の研究での課題】

対話を深めていく手立てとして、叙述から根拠を示すことができるよう、タブレットのロイロノートを活用したり、ワークシートを工夫したりする必要がある。

# さぬき・東かがわ支部 研究のあゆみ

## 1 研究主題

児童が成長を実感する国語科学習の在り方  
—付きたい力の共有化と振り返りを生かす支援の工夫—

## 2 研究活動の概要

- ・ 4月28日(金) 研究組織, 年間計画, 研究主題について
- ・ 6月9日(金) 6月23日に向けての事前研修会
- ・ 6月23日(金) 四国大会に向けての提案資料検討会
- ・ 7月21日(金) 四国大会に向けての提案資料検討会
- ・ 11月2日(木) 四国大会発表
- ・ 11月21日(火) さぬき・東かがわ教育文化祭(書写部門)作品評価研修会  
作品の評価研修  
作品搬入  
県出品作品, 巡回作品の選出と搬入準備  
県出品作品, 巡回作品を含む全作品の展示
- ・ 11月27日(日) さぬき・東かがわ教育文化祭作品搬出

## 3 研究内容

今年度は, 四国大会に向けての提案をより良いものにするために, 検討会を中心に行った。

### (1) さ・東支部としての四国大会発表原稿の検討(6/23)

#### ○ 提案内容

2年「まとまりに分けて, お話を書こう」

3年「組み立てにそって, 物語を書こう」

4年「心の動きを言葉にして, 詩を書こう」

「課題設定時」「課題解決中」「課題解決後」における, 付きたい力の共有化と振り返りを生かす支援について, 実践を絡めた内容になっていた。

#### ○ 協議内容

- ・ 実践が多いので, 主題に沿ったものに絞る。
- ・ 提案資料の文字数を減らす。
- ・ 聞いている人が分かりやすいように, 順序を変える。



### (2) 提案資料の修正(7/21)

#### ○ 発表内容に合わせて分担し, よりわかりやすくなるように, 提案資料を修正した。

- ・ 資料の精選
- ・ 文章表現の見直し
- ・ 発表原稿の手直し

### (3) 四国大会での提案発表(11/2) 愛媛県新居浜市立角野小学校にて

#### ○ 提案内容

4年「心の動きを言葉にして, 詩を書こう」の実践を通して, 「書く」分野における付きたい力と振り返りを生かす支援の工夫について発表した。

#### ○ 協議内容

書いている途中や1時間ごとの振り返り等, 自分の書いているものに常に向き合っていることが, 意欲的に自分の作品作りに取り組むことにつながっている。振り返りを言葉にする場を設けることで, 友達とも関わり, お互いの作品を高め合うことができた。



# 高松市 研究のあゆみ

## 1 研究主題 児童が言葉を通してつながり合う国語授業の創造

～「課題を解決したい」という願いをもち、『話せた・聞けた・書けた・読めた』

という自己の伸びを実感する授業づくり～

## 2 研究活動の概要

(1) 4月 研究組織を作り、研究主題の設定、年間計画作成

6月 授業をもとに、研究を深める

**北ブロック** 高松第一小学校（2年）分かりやすく伝えよう！お絵描きゲーム

「ことばで絵をつたえよう」

太田小学校（3年）「あらすじカード」を作ろう

「はりねずみと金貨」

**南ブロック** 多肥小学校（1年）「とい」があったよ！「こたえ」をみつけよう！

「どうやってみをまもるのかな」

一宮小学校（5年）資料を活用して 報告しよう「環境問題について報告しよう」

(2) 7月 夏季研修会

(3) 11月 授業をもとに研究を深める

**北ブロック** 古高松小学校（5年）自分の心に残った大造じいさんを朗読で表現しよう

「大造じいさんとがん」

屋島小学校（4年）物語の題名の意味を考えよう 「一つの花」

**南ブロック** 仏生山小学校（5年）和の文化について調べよう

「和の文化を受けつぐ一和菓子をさぐる一」

川岡小学校（2年）「キラキラ たからものはっぴょう会」をしよう

「たからものを しょうかいしよう」

## 3 研究内容

(1) 自分の学びを認識できる振り返りを生かした、「課題を解決したい」という願いをもちたくなる  
単元構想や学習問題の工夫

単元を中心となる時間における児童の振り返りを具体的に想定することで、1単位時間の展開  
やその前後の時間の在り方を考え、単元を構想する。

### 北ブロック

#### 2年『分かりやすく伝えよう！お絵描きゲーム』

- ・ 単元を通して児童の振り返りを想定することで、教師が本時最も付けたい力（より分かりやすい伝え方を考え、話すことができる）を明確にして授業に臨んでいた。

#### 5年『自分の心に残った大造じいさんを朗読で表現しよう』

- ・ 分かったことだけでなく、自分の学び方、友だちと対話しながら協働的に学んだことの視点から振り返りを書くという振り返りシートを作成していた。

### 南ブロック

### 1年『「とい」があったよ！「こたえ」をみつけよう！』

- ・ 1文目に立ち戻る板書があり、「説明文ハウス」と呼ぶ本文の掲示、これまでの学びの内容が分かる1枚物の掲示をすることで、いつでも前時を振り返ることができる教室掲示の工夫があった。

### 2年『「キラキラ たからものはっぴょう会」をしよう』

- ・ 個々人がめあてをもつことが大切とし、話し手として3つの視点の中から、自分のめあてを決め、それに向けて取り組み、振り返りも自分が決めた視点で振り返りができていた。

### 5年『資料を活用して 報告しよう「環境問題について報告しよう』』

- ・ 単元を通して付けたい力を観点別に番号で明記し、自己評価できる振り返りカードを活用した。
- ・ 「わかったこと」のみを書くのではなく、「自信がもてたこと」「学び合いによって変化したこと」など心情面の成長にも目を向けた振り返りを実施した。

#### (2)「話せた・聞けた・書けた・読めた」という実感を持たせるための指導過程の工夫

教材教具を繰り返し使用したり、同難易度の課題に複数回取り組む時間を設定しスモールステップやICTを活用して学習の工夫を図ったり、協働的に何かを作り上げる活動や意図的な人数構成をすることで学び合いを工夫したりする。

## 北ブロック

### 3年『「あらすじカード」を作ろう』

- ・ タブレットを活用し、「時・場所・登場人物・何を・どうした・気持ち」に印を付ける。スカイメニューの発表のノートを使うため、色分けしやすく、書き直しやすかった。
- ・ 気持ちメーターを使いながら、叙述を基にはりねずみの気持ちを考えた。

### 4年『物語の題名の意味を考えよう』

- ・ 自分が見つけたキーワードやイメージマップをグループ内で発表しあったり、タブレットを使って色で分類したりすることで、教材文のどの叙述から考えたかが、はっきりとつかめるようになっていた。
- ・ 電子黒板を活用して、全体交流の場で個々の考えの変化を発表することができていた。

### 5年『自分の心に残った大造じいさんを朗読で表現しよう』

- ・ 一人での学びを支援するために、SKYMENU Cloud を活用した。教材文から一つだけの表現を選択し、登場人物の気持ちを想像することを家庭学習で行ったことで、授業にもスムーズに入ることができた。
- ・ 同じ表現を選んだ同士で交流する場を設定した後、違う表現を選んだ同士で交流する場を設定し、ジグソー学習を進めることができた。

## 南ブロック

### 1年『「とい」があったよ！「こたえ」をみつけよう！』

- ・ 児童と一緒に作った教具を使って役割表現を行うことで、本文を確かめたり、本文から読み取ったりすることができた。

### 2年『「キラキラ たからものはっぴょう会」をしよう』

- ・ 児童が思い出のあるものを考えて、ICTを用いて写真を撮り、それを映し出すことができた。
- ・ タブレットを使って、自分の発表を録音し、友達と録画を見直してアドバイスし合うことができた。

た。

#### 5年『和の文化について調べよう』

- ・パンフレットを作ることができるようにするために、「全文プリントの使用」「構成メモへの整理」「資料の比較」「ICTの活用」と指導過程を工夫し、教材文を通して高まった力（付けたい力）を活用できるようにした。

#### 5年『資料を活用して 報告しよう』

- ・グループで話し合いをすることにより「対策」に適した資料選びができているかを見直すことができた。

#### 【今年度の研究での成果】

##### ○振り返りの視点の獲得

あらかじめ、児童の振り返りを想定しておくことで、教師自身がこれまでの児童の学びを自覚したり、これからの学びを見通したりすることができた。また分かったことだけでなく、自分の学び方や友だちと対話しながら協働的に学んだことの視点から振り返りを書くことで、書く内容に深まりが見られた。

##### ○タブレットの活用

多くの実践授業において、タブレットの活用が見られた。自分の姿を録音したり、イメージマップを作ったり、友だちと自分の意見を比較するために色分けして入力したりして、自分の考えをメタ認知することができた。また時間を短縮する一つの方法として、かなり有効な手段でもあった。タブレットの活用は、今まで見えていなかった部分を（声・音・意見の流れなど）可視化し、意見の取り入れやすさにつなげることができた。

#### 【今年度の研究での課題】

##### ○振り返りを生かした単元構想の工夫

令和4年度までの研究を踏襲しながらも、今年度は、新しく学びの中での振り返りの在り方を研究するだけでなく、「振り返りの想定から単元を構想する」ことに取り組んだ。児童にとって意義ある振り返りとは、適切な振り返りの視点を獲得し、何を学び、自分にどんな力が付いたのかが認識できることだと考える。そのような振り返りができれば、国語が楽しいと思える児童が増えるだろうと思われる。そこで単元の中で、付けたい力を考えた時、鍵となる時間があるので、その時間の終末で、どんな振り返りが書けたら付けたい力が付いたと言えるか、授業づくりの段階で考えることを試みているところであるため、今後更に研究を深めていくことが重要である。

また「内容的振り返り」と「態度的振り返り」のバランスと、次の学びへの生かし方を工夫し、単元構成を考えたり、児童の実態把握や単元で付けたい力を見極め、主体的に学ぶ単元構想や学習問題の設定を考えたりしていくことを重視しながら、教材研究を深めていくことが大切となる。

# 坂出・綾歌支部研究のあゆみ

## 1 研究主題

学ぶ意味を子供が実感する国語科の授業づくり  
—付けたい力を身に付けさせるために、自己を見つめることを促す—

## 2 研究活動の概要

学ぶ意味を子供が実感する国語科学習となるためには、次の3点が必要だと考える。まず、どのような力を付けるために学習しているのかという具体的なイメージをもたせ学習を進めていくことである。また、自分の考えを納得できるものにするために、解決方法を是認したり、修正したりする、自己を見つめる思考場面の設定が重要となる。さらに、振り返りの段階では、どのような学習をしたかだけではなく、今までの自分と比較してどんな力が付いたかを子供自身でメタできるような場の設定も必要である。この3つを意識して、子どもたちが楽しい、おもしろいと感じながら自らの成長を実感できる授業の高まりをめざして研究を進めた。

## 3 研究内容

### (1) 5月31日授業実践の研究討議

第5学年「書き手の意図を考えよう（教材名・新聞記事を読み比べよう）」

授業者 坂出市立坂出小学校 教諭 岡本 春菜

本単元では、教科書から新聞についての基礎知識を学び、数社の新聞記事を読み比べることで、書き手の意図によって記事の構成が変わることを学ぶ。その学びをもとに、今度は自分が伝えたいテーマと内容で新聞記事を作成した。また、「読むこと」と「書くこと」の複合単元とし、読んだことをもとに書く、書いたことをもとに読むという活動を繰り返すことで学びの積み重なりが生まれた。よって多くの児童は、伝えたいことと見出し、写真、キャプションの整合を確かめながら書くことができた。本時では、グループでお互いの新聞を見合っただけで分かったことを全体で共有することで、より相手に伝わる新聞にするためのポイントを知ることができた。

### (2) 10月18日授業実践の研究討議

第2学年「お手紙」～私のお気に入りを紹介しよう～

授業者 宇多津町立宇多津小学校 教諭 東原 千里

本単元では、登場人物の行動や会話を読み取り、自分の体験と結び付けながら感想をもつことをねらいとしている。教材文を「もしも自分だったら」と自らと重ねて考えることで、登場人物に共感したり、相違点を見つけたりして、自分だけの感想をもつことができる。そこで、「友達に伝えたい」「もっといろいろな考えを知りたい」など言語活動の目的意識を明確にして、友達との話し合い活動を行った。本時では、手紙を待っている時の2人が「どうして幸せな気持ちになったのか。」を叙述を通して想像することができ、その気持ちを役割演技で表現することができた。

## 4 県の研究との関連

【今年度の研究の成果】学ぶ意味を実感する支援

実践(1)(2)とも、単元のゴールと本時の学習課題のつながりが明確であったため、児童が本時の課題解決の価値を実感し、意欲的に活動に取り組めた。また、付けたい力の習得に向けて、(1)では、児童同士で良さなどを知らせたりすることが有効であった。この活動から、自分の伝えたい新聞に

するためのコツを見つけることにつながった。(2)では、自分が考えた気持ちを表現する手立てとして役割表現が有効であった。

**【今年度の研究の課題】** 自己を見つめることを促す支援

課題解決後の振り返りの際に、発達段階に応じた振り返りの観点・方法を示すことで、児童自身が自己を見つめ、身に付いた力や学ぶ意味を実感することができていた。自己を見つめることを促す支援として、学び方に関する観点を示すとともに、自分のよさに目を向けさせる手立て、自分の成長を捉えた上で、次にしたいことを見いだす支援等をご指導いただいた。

# 丸亀支部 研究の歩み

## 1 研究主題

児童が自ら学ぶ国語科学習の展開

- つけたい力を明確にし、その力につながる児童の「関心」を高めたり  
「自信」をもたせたりする授業づくり —

## 2 研究活動の概要

- (1) 4月19日 研究組織作り、研究主題の設定、年間計画作成  
(2) 5月31日 城辰小学校 講話・指導  
講話「最近の国語教育について」  
指導「読み聞かせの指導」  
(3) 11月29日 飯野小学校 研究授業・討議  
3年 「外国のことをしょうかいしよう」

## 3 研究内容

- (1) 5月31日 城辰小学校にて 講話・指導
- ① 講話：附属高松小学校 教諭 藤村まや氏「最近の国語教育について」
- ・ これからの社会「予測不可能な社会、正解のない社会」
- 問題解決力、支える資質・能力を身に付ける。「正解を教える教育」最適解を他者と協働して生み出す資質・能力、創造性・・・AIにはできない。
- ・ 国語科で育成すべき資質・能力と見方・考え方
- 児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着眼して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。
- ・ 他教科と国語科
- 国語科・・・言葉、社会科・・・社会認識、理科・・・科学的概念
- ・ 授業づくり
- 香川県の国語科の研究主題「学ぶ意味を子供が実感する国語科の授業づくり」・・・国語が得意な子どもも苦手な子どもも、国語科授業への意欲を継続させながら、共に学習内容を獲得していく。
- ☆ 教師は、目の前の子どもたちの実際を丁寧に見取り、子どもの姿から授業を創っていくことが大切。国語は特に苦手な子どもが授業を創っていくことも多くある。ただし、学習内容を外さないような授業づくりが求められる。

### ② 指導：青井 静氏「読み聞かせの指導」

<朝の読書運動の4原則>

- 1、一定の時間、10～15分が望ましい。
- 2、本は子どもに選ばせ、その時間内は変えさせない。
- 3、教師も親も一緒に読み、手本を示す。
- 4、感想文・記録は一切求めない。

<絵本の読み聞かせの4原則>

- 1、絵本は楽しみとして与える。
- 2、絵本は「大人が子どもに読んであげる本」である。

- 3、絵本は、繰り返し読んであげる。
- 4、質問したり、感想を求めたりしない。読みっぱなしにする。

(2) 11月29日 飯野小学校 研究授業

3年 「外国のことをしょうかいしよう」 授業者 横井 友香 教諭

- 目標
- ・ 話す内容が伝わるように、言葉の抑揚や声の大きさ、間の取り方などの工夫を考えながら話すことができる。
  - ・ 助言し合う際に、改善点だけでなく、友達のよいところも見つけることで自分の発表練習にも取り入れようとしている。



#### 【成果と課題】

##### ① 目標を達成するための手立て

- 4つの観点を確認した後、教師による動画を見せることで、児童が本時の活動に見通しをもち、良さや改善点を共有できた。
- 支持的風土のある学級経営、的確な机間指導により、学び合い、高め合う姿が見られた。
- 改善点だけでなく、良さも伝え合ったり、理由とともにアドバイスをしたりすることで、さらなる意欲化を図れた。
- 自分のめあてを決めて発表し、それを振り返ると課題がより明確になった。

##### ② 話し合い中の活動

- ICTの活用により、巻き戻して何度も見ることで、具体的な改善策を共有することができた。
- ワークシートがシンプルで、話し合いながら書き込むという活動がスムーズだった。
- アドバイスしてもらったことや自分の活動について振り返り、自己評価する場面があってもよかった。○○さんのおかげで・・・と固有名詞が出るとさらに良い。

#### 4 県の研究との関連

##### 【今年度の研究の成果】「自信・関心」を高める

児童の意識の流れに合わせて単元計画を立てるとともに、目標を明確にしたことにより、児童が主体的に取り組み、達成感を得たことが自信につながった。

##### 【今年度の研究の課題】

さらに主体的な学びにつなげ、自信を持たせるためには、改善点を伝えるだけでなく、理由とともにアドバイスしたり、良い点についても振り返ったりするなど、自分の頑張りや良さをより実感できるしかけが必要ではないか。

# 仲多度・善通寺支部 研究のあゆみ

## 1 研究主題

学ぶ意味を子供が実感する国語科の授業づくり

－ 付きたい力を身に付けさせるために、自己を見つめることを促す －

## 2 研究活動の概要

- (1) 4月19日 研究組織作り・研究主題決定
- (2) 6月14日 香小研研究発表会会場校（善通寺市立筆岡小学校・琴平町立榎井小学校・まんのう町立高篠小学校）の研究中間発表、意見交流
- (3) 7月21日 香小研研究発表会会場校公開授業の指導案検討
- (4) 11月15日 琴平町立琴平小学校 堀金 美里 教諭による1年研究授業・討議

## 3 研究内容

- (1) 6月14日・7月21日 香小研研究発表会に向けて

### 【善通寺市立筆岡小学校】

研究主題： 言語の力を身に付ける授業の在り方  
～豊かな思考と深い学びの実現をめざして～

### 【琴平町立榎井小学校】

研究主題： 主体的に学び、豊かに表現する児童の育成  
～思考の過程が分かる板書・ノートを核とした授業づくり～

### 【まんのう町立高篠小学校】

研究主題： 論理的な思考を促す仕掛けを通し、自らを見つめ主体的に課題解決を図る授業づくり

6月14日には、香小研国語部会の県の研究主題・方向性を確認した上で、各校の研究の方向性を国語科としての側面から、また、県の研究との関連の面から見直し、3グループに分かれて協議した。ICT機器や思考ツール、接続語の活用等はいくまでも一手段であり、それ自体が研究の目的とならないよう、国語科の目標に立ち返り、各校の研究のさらなる深化に向け、意見を出し合った。

7月21日は、香小研研究発表会公開授業の指導案検討を中心に行った。本単元で付きたい力や目的・相手を明確にし、付きたい力を身に付けるのに最適な言語活動となっているか、言語活動を通して指導事項が指導されるようになっているか等の視点から、単元計画や本時の学習過程を見直していった。また、県の研究のサブテーマにある「自己を見つめる」場の設定についても協議した。

10月26日には、仲善の会場校の研究発表会に、役員として、また同じ仲善支部国語部会の仲間として全員参加し、公開授業を通して多くの学びを得ることができた。

- (2) 11月15日 研究授業・討議

<单元名> 1年 チロになって、こえに出してよもう 「おとうとねずみ チロ」

<授業者> 琴平町立琴平小学校 堀金 美里 教諭（香小研仲善支部国語部会教科研究員）

## 本時の目標

叙述をもとに2つの「ありがとう」からチロの気持ちを考える活動を通して、おばあちゃんに対する感謝の気持ちの深まりや広がり进行想像しながら読むことができる。

## 魅力的な学び合いを行うためのしかけ

- ① 「じまん発表会で音読劇を発表する」という言語活動を設定し、叙述・挿絵をもとに行動と気持ちをつなげながら読み深め、具体的に想像する必要感をもたせる。チロの気持ちを想像する際は、目・口・しっぽの視点を与え（チロカード）、気持ちを多様に考えられるようにする。
- ② 板書や掲示に「音読劇をするために」という言葉や学習計画を明示し、見通しや目的意識を常にもたせていく。また、登場人物の台詞をカードで示し、表記とチロの気持ちを関連付けて考えさせていく。

## 本時の板書



### < 研究討議 >

- ・ 自分の学びを振り返る時間を確実にとり、自己の伸びを確認できている。
- ・ 発問の仕方で子どもの意識が大きく変わる。2回の「ありがとう」の気持ちの違いを授業者は問うたが、子どもがその違いを言語化するのは難しかった。言い方の違いを考えさせた方が違いを明確に捉えられた。
- ・ 音読の時間を十分に設定する必要がある。また、気持ちを考えた後、すぐに音読につなげていくとよかった。
- ・ 表記（「あ、り、が、と、う」）から気持ちを考えるのは1年生には難しい。動作化したり声に出したり、ペアで話し合ったりする中で想像を膨らませる方が、学年の発達段階に合っている。

## 4 県の研究との関連

### 【今年度研究での成果】

- 付けたい力を育成するために最適な言語活動を位置付けた授業づくりについて研修を重ねることにより、公開授業・研究授業では、課題解決への意欲を高めていく子どもたちの姿を見ることができた。

### 【今年度研究での課題】

- 自分の成長や学びに向かう姿勢を振り返るにとどまらず、学び方のよさに気付かせていく振り返りの支援を行っていくことで、汎用性のある学び方を身に付けさせたい。

# 三豊・観音寺支部 研究のあゆみ

## 1 研究主題

学ぶ意味を子供が実感する国語科の授業づくり  
 —付けたい力を身に付けさせるために、自己を見つめることを促す—

## 2 研究活動の概要

- (1) 4月26日（水）第1回理事研修会（三豊市立桑山小学校）
  - ・組織づくり・年間計画作成・研究内容の検討
- (2) 6月9日（金）第2回理事研修会（三豊市立桑山小学校）
  - ・香小研夏季研修会提案に向けての検討①
- (3) 7月21日（金）三観小研夏季研修会（観音寺市立豊田小学校）
  - ・香小研夏季研修会提案に向けての検討②
  - ・豊田小の研究・教材研究・意見交換
- (4) 8月29日（火）第3回理事研修会（観音寺市立豊田小学校）
  - ・三観小研研究発表会の指導案検討
- (5) 11月8日（水）三観地区小学校教育（国語）研究発表会（観音寺市立豊田小学校）

## 3 研究内容

### (1) 香小研夏季研修会の提案について

第2回理事研修会で、1年「おとうとねずみチロ」（観音寺小）の実践を核にした三観支部の取組の提案についての検討を行った。提案内容や資料等について改善点を話し合い、修正を加えた。

7月21日の夏季研修会（前半）では、部員に向けて香小研夏季研修会での提案のリハーサルを行った。参会者の立場から、よく分かった点と修正点等をグループ討議により挙げてもらい、さらに分かりやすい提案にするために話し合った。多くのグループから「物語を読むコツ」の表が分かりやすく、提案性があるという意見が挙がった。また振り返りの場面やICTの活用に関して質問が出るのではないかという意見があり、参考にすることにした。

<教師用>	ものがたりをよむ コツ (◎特におさえたいコツ)											
	そうぞうする					みつける						
目	みみ	ほな	て	こころ	えがら	うごめ	ままのふん	あると	くらべる	ほかに	じぶん	
かたごころ	こえ	におい	て	あじ	おもしろ	えがら	うごめ	ままのふん	あると	くらべる	ほかに	じぶん
とんごとん (5月)	◎			○	○	○	◎					
おおきなかぶ (6月)	○	○		○	◎	○	◎	○				
かいがら (9月)	○	○		○	◎	◎	○	○	○			
サラダてげんき (10月)	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	◎	
おとうとねずみチロ (11月)	○	○		○	○	◎	○	○	◎	◎	○	
スイマー (2月)	○	○		○	○	◎	◎	○	○	○	○	◎
2年 風のゆうびんやさん (4月)	○	○	○	○	◎	○	○	○	◎	○	◎	○

### (2) 三観地区小学校教育（国語）研究発表会に向けて

夏季研修会及び第3回理事研修会では、11月に開催する三観地区小学校教育（国語）研究発表会（豊田小学校）の研究の概要と授業実践についての討議を行った。

#### ① 【豊田小の研究の概要について】

##### 研究主題

子どもの「Want」を引き出し、学びを楽しむ国語学習

豊田小では、県や三観支部の研究主題を受け、「文章を読むこと」が苦手なために国語が好きではないという児童の実態から研究主題を上記のように設定して研究を進めていた。児童

が身に付けたい力を意識し、「～したい」「どうすれば～できるか」といった思い「Want」を大切にしながら、友だちと協働的に学び、主体的に課題解決を進めていくための指導の在り方について研修した。

## ② 【研究授業について】

2年 単元「どうぶつのひみつをさぐるう」（教材「ビーバーの大工事」）  
重点指導事項…C（1）ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。  
言葉の力 … 知りたいことを本で調べる。

6年 単元「関連する作品を読んで、すいせんしよう」（教材「ヒロシマのうた」）  
重点指導事項…C（1）カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。  
言葉の力 … 関連づけて読む。

夏季研修会では、部員の先生方が2つの学年のグループに分かれ、11月の研究発表会で行う授業の単元と指導事項、学習活動等について討議した。豊田小の研究内容や授業者の思いを受け、児童に付けたい力を意識して実践できるものになるように話し合いが進められた。

また、第3回理事研修会では、夏季研修会で部員から出された意見を踏まえ、討議の視点を「①話し合いをもたせる場や方法」「②振り返りの方法」として教材研究や指導案検討を行った。指導事項に加え、学校課題と児童の実態、指導者の思い等を考慮しながら指導案の修正を行った。



## (3) 三観地区小学校教育（国語）研究発表会（観音寺市立豊田小学校）

### ① 【2年 授業公開】

2年「どうぶつのひみつをさぐるう（ビーバーの大工事）」では、単元の導入で、動物のひみつを1年生に紹介するという目的意識から、楽しく分かりやすく紹介したいという「Want」を湧かせるようにした。そして、本時では、ビーバーのダムづくりのひみつについてすごいと思うところを重要な語や文を考えて選び出し、理由をつけて話し合う活動を通して、グループの中の一番すごい（紹介したい）

と思うところを決めて発表する学習を展開した。学習の手立てとして、前時までに見つけたひみつを提示してつながりを意識させたり、話し合い活動を活発にするために、グループで一人一人の役割を決め、みんなが参加できるように工夫したりした。

#### 【授業討議】

動物のひみつを1年生に紹介したいという単元全体を通しての「Want」と、それに向かうための毎時間の「Want」が大切になってくる学習だった。一番すごいと思うダムづくりのひみつを見つけるために、グループでの話し合い活動を取り入れたのもよかったが、それぞれの個の選んだ思いもあるので、グループで一つに絞らず紹介し合う活動になってもよかったのではないかという意見も出された。



## ② 【6年 授業公開】

6年「関連する作品を読んで、すいせんしよう(ヒロシマのうた)」では、単元の導入で戦争の語り部の方を招き、被爆体験記の朗読を聞く経験を通して、自分を含め戦争を知らない次の世代に戦争のことを伝えていかなければならないという意識を高めた。その中で、戦争を経験した人々の思いや平和への願いを伝えたいという「Want」をもたせることから学習を始めた。そして、本時では、「ヒロシマのうた」を読んで強く心に残った文や言葉を根拠とともに話し合わせることで、物語の作者が伝えなかったことに思いを寄せ、自分が選んで読んでいる本の推薦文にもつないでいく学習を展開した。



### 【授業討議】

被爆体験記の朗読を聞く機会が、子どもの「Want」につながり、伝える相手を意識して学習を進められた。心に残った言葉についての話し合いの場で「ヒロシマのうた」の最後の一文に着目して話し合う活動があり、作者の思いを深く読み取るために有効な学習だった。また、自分が選んだ本の最後の一文を意識することにもつながった。出来上がった推薦カードは、学習発表会で展示して見てもらうということなので、読んだ人に感想をもらえるとさらに学習を充実させるのではないかという意見があった。

## 4 県の研究との関連

### 【今年度の研究での成果】

- ・ 単元を通して目的意識や相手意識をもった学習を展開できるように教材研究を行って実践できた。その中で児童は、今の自分を見つめ、文章を読んで分かったことを分かりやすく伝えたいと考え、どうすれば分かりやすくなるのかと『付きたい力』を意識することができた。また、交流の場で話し合いが活性化するように工夫や支援を行うことで、自分の考えを確かめたり、違う意見に触れることで考えを深めたりすることができた。
- ・ 学習を振り返る活動を通して、できるようになったことを意識し、次の学習につなぐことを大切にすることができた。

### 【今年度の研究での課題】

- ・ 言葉を使って表現することを楽しみながら、力が付いたことを実感でき、文章を読んで「分かる」ということが「国語が好き」につながると考えられる。今年度の研究で実践したように、読む目的や伝える相手を設定し、言語活動への意欲を継続させることがさらに必要である。
- ・ それぞれの子どもがもつ読解力や表現力には個人差がある。同じ学習活動でも一人一人が学びを実感することができるようにさらに学習活動を工夫し、毎時間の振り返りを大切にしたい学習を進めていきたい。